

巻頭言

ご挨拶

福山大学人間文化学部心理学科附属「こころの健康相談室」は、平成18年4月6日にその看板を掲げて開室し、4月18日より相談受付を開始しました。またそれに先立ち、2月25日には福山市男女共同参画センター「イコールふくやま」で、「こころを育てる こころを支える」をテーマに、5人の心理学科教員がリレー式でオープン記念講演を行いました。開室後の詳しい活動状況は別にゆずるとして、今のところ順調に相談活動は始まり、そして続いています。また、8月26日には、愛知学院大学心身科学部の学部長である田畑治先生をお迎えして、開室記念講演会を本学で開催することができました。ここに至るまでの、理事長・総長や学長を初めとする大学関係者の方々、広島県教育委員会、福山市教育委員会、府中市教育委員会、福山中央ライオンズクラブを初めとする様々の地域の皆様のご支援、ご協力、ご指導に、この紙面を借りて心から御礼申し上げます。

この相談室は、地域の皆様のこころの健康に関する相談を中心として、専門家の育成と学習の場の提供を目指すとともに、心理臨床に関する実践的活動を推進することを目的としています。これまでのところ、何らかの心の問題をお持ちの方へのカウンセリング活動が中心ですが、来年度は人間科学研究科心理臨床学専攻修士課程の1年生が誕生し、相談室のかかわる教育活動も本格的に始まります。また、10～20人の大学院生が私たち教員と一緒に活動することになりますので、活動の範囲を徐々に広げ、こころの健康増進に向けてさらに地域に積極的に関わっていきたくと考えております。来年度は、相談室の運営委員を兼ねる心理学科の専任教員も11人となり、そのうち半数は臨床心理学を主な教育・研究領域としていますが、その他比較的基礎的な領域を担う教員も全員心理臨床学のフィールドをもって活躍しており、今後の地域のこころの健康増進の活動に、このことが大いに役立つものと思っております。私どものこれからの活躍にご期待頂きますとともに、引き続き、ご支援、ご協力、ご指導を賜りますようお願いいたします。

ところで、心理学、特に臨床心理学は今、世間から結構注目されている学問領域といえるでしょう。科学爆発とも言われる19世紀そしてそれ以降の科学技術の驚異的進歩により、私たちは物質的に恵まれた便利で効率的な社会を築いてきました。人類の長い歴史から見れば、自然科学など哲学や宗教と比較して、できたてのほやほやであるにもかかわらず、私たちの生活はもはやそれなしには成り立たないほど科学技術に依存しています。しかし自然科学とその応用技術の大成功は、私たち人間の幸福にとって大成功だったのでしょうか。なぜ親が子を殺し、子が親を殺し、子が子を殺し、自ら命を絶ち、そして世界中いたるところで殺し合いが絶えないのでしょうか。精神的豊かさというのは何によってもたらされるのでしょうか。私のように、戦前に生まれ戦中戦後に育った者には、物質的窮乏も二度と味わいたくないものの一つです。しかしながら、この物に満ちあふれ、それ以上にストレスにも満ちあふれた、現代社会というのはいったい何なのでしょう。物質的豊かさと精神的豊かさの乖離を埋めるものの一つとして、心理学や心理臨床学は機能しうるのでしょうか。墨黒々と「こころの健康相談室」と書かれた素朴な厚い木の板の看板を見るとき、時にそんな思いにとらわれます。

なにはともあれ、ここに「福山大学こころの健康相談室 第1号」を刊行できましたことを、感謝の心を込めてご報告して、挨拶とさせていただきます。

2007年2月

こころの健康相談室長 松田文子